



日本カトリック海外宣教者を支援する会

巻頭言

世界遺産のフォンニャ＝ケバン国立公園

聖パウロ修道会 司祭 山内 堅治

実際に住んでみないと伝えられないことというのはたくさんあります。海外での生活はまさにそうでしょう。2016年7月から2019年5月まで、私はベトナムでの召命活動・志願者の養成のためにサイゴン（ホーチミン市）で生活しました。行くまでは、ベトナムの北部、中部、南部を同じように考えていましたが、実際に住んでみると、気候、食べ物、言葉の違いがあることに気づきました。確かに、日本でも東北と九州では温度差、果物の種類、方言の違いがあります。ベトナムでも北部や中部では春夏秋冬の四季があるけれど、南部は雨季と乾季に分かれています。食べ物（麺類）のフォーやブンでも味付け・材料が違うし、ベトナム語の読み方も北部と南部で違ったりします。

さてベトナムでの生活が半年過ぎた2017年1月中旬、ベトナム中部のフエ、ラバンの聖母マリア、フォンニャ溪谷、クワンビン、ハーティン、ゲアンなどを一人のベトナム人の志願者と旅し、旧正月をゲアンで過ごしました。この旅の中で、フォンニャ溪谷でのミサがとても印象に残っています。

♡♡もくじ♡♡

巻頭言	1
第94回運営委員会議事録	3
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ	8
こんにちは！お久しぶりです!!	8
ECHO	9
宣教者のお話を聞く会	11
クリスマス特集	13
連載「海外宣教」	14
新しい支援者・事務局より	16





鍾乳洞

フォンニャ溪谷は世界遺産の一つで、洞窟は日本の秋吉台の鍾乳洞に似ています。この町に教会があり、主任司祭が在住する教会は聖パウロにささげられています。また巡回教会が三つあったように思います。主任司祭に挨拶に行きましたら、翌日の朝、フォンニャ溪谷近くの巡回教会で、一人でミサをささげてくれないかと頼まれました。

翌日の朝4時、川沿いの広場に集まる約束をしました。朝の4時はまだ真っ暗。広場で信者さんに会い、小さな渡し船で巡回教会へ出発。バイクで行くこともできますが、途中で橋がなく、相当遠回りをしなければならないので、渡し船が便利とのこと。真っ暗な闇の中、船頭さんがかい櫂を上手に操りながら進んでいきます。途中、ポイントがかすかに見えますが、どこをどう移動している



教会近くの村

のか分かりません。ただ船頭さんを信頼するだけです。しばらく下っていくと、日の出を前に、かすかに山や溪谷が見えました。墨絵の世界を連想させてくれました。

20分くらいして渡し船が小さな港に着き、信者さんが数人迎えに来ていました。巡回教会とはいえ、とても立派な教会で、信徒は200名くらい。世界遺産

のフォンニャ溪谷がすぐ近くにあり、ここで働く人たちはほとんど信者なのかなあと想像してみました。

ミサは午前5時開始。ベトナムに来て半年ですが、頼りないベトナム語で「ニャン・ザー・チャー・ヴァ・コン・ヴァ・タイン・タン（父と子と聖霊のみ名によって）」と唱えると、信徒たちはちゃんと「アーメン」と応答してくれ、それだけで自信がわいてきました。短い説教を日本語で行い、志願者が通訳してくれました。どれだけ伝わったかよく分かりませんが…。聖体拝領の際には、信徒が200名近くいましたので、けっこう時間がかかりました。

ミサ後、教会の広場でテーブルを広げ、みんなで朝食。ベトナム料理のフォーを準備してくれ、とても温かい気持ちになりました。周囲には貧しい家がたくさん見えました。貧しくても、みんなで食事をし、温かいおもてなしが目に焼き付いています。主の食卓と朝食を共にしながら、さわやかな一日が始まっていきました。

第 94 回運営委員会議事録

日 時：2024 年 9 月 14 日（土） 13:00～14:15

場 所：聖フランシスコ修道会 修道院 2 階教室

参 加：運営委員 10 名 欠席 3 名

議 事

I. 「きずな」168 号について

編集者から→今回はいつもより早くできた。山野内司教の原稿もゆったり掲載することができた。事務局来局が 2 件掲載で、人の動きがかなり戻って来た感があり良かった。

委員方の感想→表紙の花も綺麗。

II. 「きずな」169 号について

169 号巻頭言： 未定 聖パウロ会：山内神父にお声はかけている。

本日欠席の会長：村上神父にも記事をお願いした。

III. 援助申請

今回はぎりぎりまで待っていたが、残念ながら無かった。

前回分の \$ 交換が高額であり・レートなどが大きく変動して少々手間取った。

前回の南スーダン援助金 \$ 8,920.00 は昨日 9 月 13 日帰国中の Sr. 下崎（イエスのカリタス修道女会）に無事手渡しできた。明日 9 月 15 日出国される。間に合うようにお渡しすることができて良かった。

IV. その他

- ・今回発送国内：2,732 通
- ・9 月 6 日ボランティア 4 名で 国内大口：53 通・海外発送：97 通
- ・フランシスコ会受付の件 新しい方が受付に入られた。
- ・今年度「海外宣教者のお話を聞く会」について
日付：10 月 26 日、場所：フランシスコ会 1 階ホール
話し手：Sister 荒井祥恵（聖マリア修道女会） 無料
- ・海外宣教者名簿について 3 か月で作成完了。今年度中発送
- ・次回海外・国内大口発送は 12 月 6 日（金）
- ・事務所冬休み 12 月 24 日～2025 年 1 月 6 日までの予定

次回運営委員会 12 月 14 日(土) 12 時～ 終了後懇談会予定



宣教者からのお便り



フィリピン ◆コロナダル◆

日本語にふれるよろこび

ご受難修道女会 松 田 翠

いつも、「きずな」や雑誌や「心のともしび」等を喜んで読ませて頂いております。

「心のともしび」No779、「遠藤周作特別号」を深い関心をもって遠藤氏の心と一つになって読みながら内的に深いものを味わわせていただいております。

49年間も外国に住んで外国語（英語）が日常語となっている毎日の中で遠藤周作氏の単純ではありながら、美しい日本語の含蓄のある語彙、日本語ならではのニュアンス、言い回しを新たに学び味わいながら母国語の美しさを見直しています。遠藤氏の日本語は単純でありながら純粹、深みがあり、私の生活を味わいのある豊かなものにしていただいています。豊かさの中に埋もれがちな日本文化の中に生活していれば、触れることのない味わうことのない深い内面性を体験しております。友人が「夫・遠藤周作を語る」をずい分前に送ってくれました。氏の生誕100年を記念してもう一度読み込みたいと思い、目の前においています。氏の沢山の著書は題目と広告を知るだけで、実は日本語で（沈黙）は読みました。）読んでいません。氏は私と同じ夙川教会の信者でいらしたことを伺っておりますが、お目にかかったことはあり

ませんでした。

チャド ◆ライ◆

いつも心に留めて頂き感謝

シヨファイユの幼きイエズス修道会 松 山 浩 子

11月15日にお会いしてチャドの生活について話したいけど忘れてしまいそうなので、書き留めておきます。母が亡くなって思う事は私の“今”あるのは母のお陰だと思えます。母は中学しか出ていなかったけど私が小さい頃、祖父母の看病、農家の仕事等、私たち子ども4人を食べさせる為に必死だったのだと思えます。祖父母が他界した後、和裁、洋裁を習い着物、洋服を縫ってくれました。農協で料理を習って十分に食べさせてくれました。

チャドのお母さんが料理を作る時、水を運び、薪を運び、野菜を野原で採り穀物を粉にする為に搗きます。（今は粉にする機械が増えてますが）子どもが何人もいる家族ならみんな手伝います。そんな家族で育ったアフリカ人の神父様方には“お母さん”の存在は絶大です。だから母が亡くなった時、私がすぐに日本に帰国できなくて仕事をしていると、司教様まで私の所に来てお悔やみ、哀悼（の言葉）Condoléances! を伝えてくれました。外国で勉強している神父様まで電話してくれて、私のお母さんは「みんなのお母さん」と言ってくれました。たとえ顔



シスター近藤と幼稚園の生徒



家畜の世話をする子供たち

が見られなくても……。

母は私たちの修道会が経営のみこころ病院で、シスターの姿があるだけで笑顔でした。私がシスターになって母方の祖母に会った時“樺太では氷を火で焚いて水にして生活していて大変だった!!”と話していました。以前「チャドの大地Ⅱ」に掲載され、チャドで3か月で亡くなったシスター嘉倫子のお母さんと私の祖母は奄美大島の瀬留教会でお友達だったとか（後で知ったのですが、）祖母も母も父親への従順で結婚したけどシスターという存在に憧れていたのだと今思います。私が小さい頃、熊本の菊池では聖コロバン会の神父様が土の上にひざまづいて祈る姿がありました。だから私の母も夜、神棚に向かって昔の祈祷書の晩の祈りをする時（子どもながらに「ながい」と思っていました）ほぼ強制的に私たちもひざまづいて祈ってました。今では本当にありがたいと感謝！

チャドの生活は不便ですが、昔の生活を想い

起こして「土」に触れる事、多くの人々と自由に出会える事、天国から祖母と母が特に見守ってくれています……。お世話になった井上さん、八幡さんもいつも親身になって聞いて下さり感謝します。これからも修道会の会員が増えて、神への奉献生活を生きたいと思えるように、私自身が主キリストの心となって生きられるようにこれからも見守ってください。

感謝と祈りのうちに。

グアテマラ ◆コロンバ◆

勉強会のその後

ベリス・メルセス宣教修道女会 眞神シゲ

13年前、2011年4月私は、74歳の誕生日を此処（メキシコ国チアパス州ソヤティタン村）で迎えた。最初に取り組んだ事は、薬草畑作りだった。「ソヤティタン村のメルセス会の畑には、チアパス中の薬草がある」これを目標に私は、薬草集めに懸命になった。畑の噂を耳にして、遠くアマテナンゴから、大きな袋を持って、薬草を取りに来る人が増えて行った。彼ら、また、教会の人々と話し合ううちにひょんなことから、薬作りが始まった。咳止め、熱冷まし、筋肉強壯剤などなど。

また、教会に来る子供たちのために、図書室作りも始めた。約300冊程の本を購入し、各週の土曜日には、近所近辺全ての子供達のために、図書室を開放した。そして、遂についに、2022年には、待望の自動車を買うことができた。

“きずな”の皆様のおかげでした。此処で改めて御礼申します。ありがとうございました♪

この後、私は、グアテマラ国の修道院で生活する様になった。グアテマラ国は、メキシコ国の隣である。隣国といっても、文化、習慣、政治のあり方、などなど大いに異なる。際立つ違いは、メキシコ国は、難民の通る国で、グアテマラ国は、難民発生国である。

グアテマラ国グアテマラ市には、無数の貧民窟が有る。中でも大きいことで有名なロス・アンヘレスと呼ばれる貧民窟のそばに、メルセス会の修道院があって、私は、此処に住んでいた。此処での私の仕事は、朝6時から始まっていた。無料朝食会の準備、9時から、子供達の勉強会の手伝い、火曜と木曜には、女性対象の識字教育の手伝い。午後からは、修道院の留守番やなんでもできる出前ボランティアであり、その道に励んでいた。

先年、ロス・アンヘレス教会の主任：ヘスス神父の突然の帰国の時には、識字教育の行方が危ぶまれましたが、“きずな”の皆様のご支援で今年も続けることができました。深く感謝しております。

2024年4月87歳となった真神。まだまだ元気と自負して居るが、今は、メキシコ国ハリスコ州のグワダラハラ市チャパリタの修道院で、庭の花畑の管理に勤しんでいる。心の中には、グアテマラ国の貧民窟に住む人々のことを



識字教育

忘れることができない。雨の日には、洪水。日照りの日には、水不足。何が起ころうと一楽しく生きて居るかな～

インド

◆ナガランド◆

インド通信 23 その7の抜粋

メディカル・ミッション・シスターズ 延江 由美子

みなさま、こんにちは。先週ガロヒルズのラジャバラに来ました。先日シスターと市場に行つて、ある店主と店員とやりとりする機会があったおかげ（彼らは英語も話せたので助かりました。言葉はほんとうに大事だと痛感しきり）で、印象がグッと変わりました。お客と対応する術を心得ていることもありいいものでした。ムスリムの人たちは老若男女とにかく働き者で、向上心があつて、外見は見窄らしい身なりをしている人でも実はお金をたくさん持ち合わせているそうです。土地をどんどん買い取り、「領土」を広げていった。ガロの人たちは必要に迫られて二束三文で売ったのでしょうか。「土地の価値がわからなかったんだらうね。」という神父さんは15歳の時に神父になるべくケララ州からガロヒルズに来て以来50年になります。あちこちに広がる砂っぽい土地では、ムスリムの人たちがせっせとレンガをつくっています。それを地元のガロの人が買って家を建てる。皮肉だなあ、と思いました。けれど、たとえばガロがそういう土地を売らずに所有していたとしても、果たして彼らはそこからレンガを作って売れることを考えついたかどうかは疑問です。

北東部のあちこちで急速に開発が進んでいる

一方で、この辺りはムスリムが増えている以外にこれといって目立った変化は見かけません。以前と変わらずかなりの田舎で何の娯楽もありませんから、市場が立つというとみんな勇んで出かけます。ベンガリ（ムスリムとヒンドゥー教徒）人が営む店が立ち並び通りにガロやハジョンがやってきて買い物をし、知り合いと出くわしては元気に声を掛け合って喜びます。細い小道を入ると薄暗い奥に郵便局がありました。郵便物がここまで届くには何ヶ月かかるのでしょうかね。

ラジャバラで長年奉仕してきたシスター・ニルマラが心臓麻痺で去年の11月に急逝してから早一年。大黒柱がいきなり倒れてしまったようで私たちはすっかり途方に暮れましたが、年が明けてシスター・メアリーが赴任してからというもの、彼女の熱意とパイタリティーとクリエイティブなアイデアで新たなのちがしっかり芽生えています。さて、メアリーが始めたプロジェクトの一つが、MMS ミッション開発部からの支援によって実現した3ヶ月間の裁縫教室です。カテキスト（教会からお給料をもらって教会の活動のために働く人）の助けを借りてあちこち回って声をかけて宣伝し、第一期生としてガロとムスリムの女性合わせて37人が集まり、無事に卒業しました。現在第二期生として24人がほぼ毎日午前中にやってきます。おとといは彼女らによる歓迎パーティーがあり、大変なおもてなしを受けました。晴れ着を纏って参加するこうしたイベントは彼女たちにとっても気晴らしになるのでしょうか、みんなウキウキして写真を撮り合ったりしてはしゃいでいました。クリスマスには第一期生も呼んで



裁縫をする生徒



シスターメアリーと裁縫教室の生徒たち

一緒にお祝いしたいとメアリー。女性たちは、メアリーが精一杯に尽力して自分達のエンパワーメントに努めてくれていると心から感謝しています。

ディマプールの大学で教えているマオ・ナガの神父さんに、ナガランドを去る前、「きちんと調べていないから正しい見解を提供できないかも知れないよ」と躊躇されたのですが頼み込んでマニプール紛争の概要を教えていただき、多少全体像が見えてきました。1947年にイギリス人がクキ族の人たちをミャンマーから労働者や国境付近の警備隊として連れてきたという話から始まり、今回の民族紛争でなぜクリスチャンが迫害される羽目になったのかななどを説明してもらって、少なくとも3つの大きな事柄が絡んでいるとわかりました。モディ政権率いるインド政府は、RSS（ヒンドゥー至上主義の極右・ファシスト団体）がマニプールで何をし

ているか「知っているが知らないふりをしている」とも。今ではインド国内のメディアもあま

り取り上げないようですが、悲惨な状況は続いています。



*チャド ライ

ショファイユの幼きイエズス修道会 松山浩子

「私の母も6月18日に、亡くなり……」

チャドでは、シスター平が不在、休暇中だったので、シスター平と入れ替わりに9月10日に仁川修道院に帰って参りました。所用で熊本に9月19日～10月2日まで帰ります。12月8日まで日本なので、一度東京にもお訪ねしたいと思っています。

チャドも今までに見たことのない大雨で多くの方が亡くなり、家を失いました。命があるだけで感謝!!

*ペルー リマ

イエスのカリタス修道女会 末吉順子

ペルーでは今大規模なストライキが始まっています。テロリストグループが、バス運転手、タクシー運転手、小さな店舗などを襲い、大金

を要求し、渡さなければピストルで射殺するという事件が連続で起きています。先日は公立高校で授業中の教師が、生徒の目の前でいきなり射殺される事件がありました。政府に対して安全と保安を要求するストライキです。

リマ市郊外貧しい地域にあるイエスのカリタス修道女会運営マリア・タキ保育園、園庭の屋根に破損が見られ、改築の必要に迫られています。子供たちの安全を考え早急に修理が必要です。どうぞお祈りください。

*バラグアイ

聖霊奉持布教修道女会

バラグアイ宣教のシスター

山田雲江は2024年10月18日現地で帰天されました。天国での安らかな憩いをお祈り申し上げます。



事務局訪問の宣教者

2024年8月20日



グアテマラ

ベリス・メルセス宣教修道女会

Sr. 眞神 シゲ

私の日本訪問の大きな目的の一つであった、海外宣教者を支援する会の事務局訪問を

することでした。時差ボケの収まったこの日、朝9時修道院を出て、蒸し暑い懐かしい日本の夏を感じながら、六本木の事務所まで水筒片手に、冷房の効いた地下鉄に揺られて行きました。

3年前と変わらぬ事務局長さんの柔らかな笑顔とキーンと冷えた部屋が私を出迎えてくれま

した。事務局長とは、私が、メキシコ国チアパス州ソヤティタン村に派遣された時から始まり、思い出話をさせていただきとても楽しいひと時を過ごしました。

2024年10月22日———東ティモール
聖マリア修道女会



Sr. 荒井 祥恵

東ティモールから一時帰国中に「宣教者のお話を聞く会」の話し手を賜り、事務局訪問を兼ねて打ち合わせにお伺いしました。

2024年9月13日———南スーダン ジュバ
イエスのカリタス修道女会



Sr. 下崎 優子

本当にお久しぶりです。3年前にお目にかかって以来です。今回は一時帰国してから直ぐに能登の支援に行っておりました。本日は同会のシスター山崎と一緒に邪魔して今回の

援助金を受領致しました。本当に有難うございました。この援助金を大切にに使わせて頂きます。15日に離日致します。皆様もお元気で。2024年11月8日———ブラジル

イエスのカリタス修道女会

Sr. 赤塚 洋美



9月に帰国して11月10日には離日ブラジルに戻ります。

日本に来るときはドバイ経由でブラジルから15時間、ドバイ8時間のトランジット後、日本の羽田まで10時間、修道会のシスターにお迎えに来てもらったのは11時を過ぎていました。荷物を出して修道会に帰ったのはほとんど1時前で姉妹にも大変な思いをさせてしまいました。

とてもお元気な松尾神父様からもくれぐれも宜しくとのことをお伝え致します。

これからも宜しくお願い致します。



◇いつも「きずな」をお送り下さり、ありがとうございます。168号巻頭言の新たな召命のお話は素晴らしいですね。

(鹿児島市 岩崎 正幸)

◇「きずな」ありがとうございます。修道会のシスター方にお世話になったことを想い、感謝の気持ちを含めて拝読しております。(匿名希望)

◇いつも現地からの声に励まされています。世界中の同じ時代の空気、今が決して良い時でないなら、さあ私たちは何を始めましょうか。すべてを祈っています。(福岡市 森 由理)

◇いつも「きずな」をお送り頂きましてありがとうございます。異国の地にあつて困難な状況の中、喜びをもって宣教に従事されているシスター方のお姿にいつも感動しております。これからもお身体に気を付けて。平和の福音を人々にもたらし続けて行かれますように。

(那須町 那須トラピスト修道院)

◇現地でのお働き、いつも感謝しております。祈りしか出来ませんが、元気でおられますように。(埼玉県さいたま市 長山 好子)

◇主の平和と平安 残り少ない人生ですけれど、

ただただ世界が平和でありますようにと、祈る毎日です。不自由な国々で働いていらっしゃる方々がお身体を大切にとお祈り致します。

(鹿児島県 伊地知 咲子)

◇海外で宣教なさる皆様の為にいつもお祈りし

ています。(東京都 酒井 三貴子)

◇猛暑の熊本でした。世界中大変です。神様のみに委ねてお祈りのうちに。

(熊本県 Sr.益田 典子)

「きずな」に感謝

海外宣教者を支援する会 運営委員

片山 恭子 (徳田教会)

私が中学一年生の時のことです。

ミッションスクールに中学から編入しました。当時、編入生は一年間、寄宿舎生活をしなければなりませんでした。食堂では、小学生から高校三年生まで一同に集まり、6名で一つのテーブルを囲みました。必ずテーブルの高校三年生か二年生の言うことに従わなければなりませんでした。

入学して一学期め、私の隣にいた高校三年生。その方はいつも手にミニロザリオを持っていて、立ち居振る舞いからして「この上級性はシスターになれるかも。」と子ども心に思ったものです。その後、実際にその上級生は思った通り、母校の修道会のシスターとなり、地方の修道院院長になりました。しばらくして、その方がインドネシアにおられることを知りました。

「きずな」を海外に送るお手伝いをしている中に、懐かしいシスターのお名前を見つけました。海を越えて現地の人々の中に溶け込み、信頼を得て、イエスを多くの人に伝えること。宣教とは何かも知りました。

神の思し召しで海外にて宣教される方々のために「海外宣教者を支援する会」でお手伝い出来る機会を頂き、深く感謝いたします。

徳田教会バザーの報告

海外宣教者を支援する会 運営委員

波多野 真理子 (徳田教会)

昨年は大雨にたたられました、今年は晴天に恵まれ、徳田教会のバザーは賑やかな一日となりました。(何年か前から「徳田まつり」と言う呼び名になりました)

御心の御像が見下ろす広場にベタニア修道女会のシスター達のお店や日曜学校のゲームコーナー、神父様の「酒蔵」等々が出店です。その一角に私達のお店も並びました。

ちょっとお腹がすくとお隣のコロッケやギョウザ、また美味しいパンやカレーもあります。私達のお店は「ちょっと早いクリスマスマーケット」と言う名にして、クリスマス飾り等を並べてみました。ご自分でチクチクと手仕事で完成させた袋物や敷物を作ってきて下さった方は売上の全額をご寄付下さいました。またお得意の和刺繍で仕上げた見事な作品を持ち寄って下さり、ご協力頂いた方達には本当に感謝です。

こうして並べられた品々はほぼ完売、予想を越える額を“海外宣教者を支援する会”に届けることが出来ました。

この方達が売り子さんになって下さったお陰で、私は会報誌「きずな」のバックナンバーを配りながら当会のことを皆さんにお伝えする事が出来ました。

バザー終了時には心地よい疲れを感じながらのお店仕舞いとなりました。

「宣教者のお話を聞く会」

日時：2024年10月26日 土曜日

13時00分～14時30分

会場：東京六本木フランシスコ会修道院 1階ホール

話し手：シスター 荒井 祥恵（聖マリア修道女会）O.D.N

東ティモール アタウル島 現況

私たちは、東ティモールの司教様の依頼で2022年1月に会として初めて東ティモールでミッションを開始いたしました。開始の最初の時から、海外宣教者を支援する会の皆様からご支援を頂いております。本当にありがとうございます。今日は、このような皆様へのご報告の場を頂きまして本当にありがとうございます。

2022年1月に東ティモールに入りまして、私達はアタウロ島に共同体を開きました。BELOIという場所です。到着して直ぐにディリDILIでテトゥン語の勉強を始めました。それが終わってからアタウロ島の人々の暮らしを知る、文化を学ぶ、その社会について知るために、色々なところを訪問しました。そうしながら、島の人々のことを学び、彼らと親しくなることが出来ました。

色々な状況を見て、私たちに伝えられる、この島のニーズは子供たちへの学習支援と必要な栄養の取れる食事の提供であることが見えてきて、このニーズに応える目的で2023年の9月にレストナック社会教育センターを開きました。

教育……

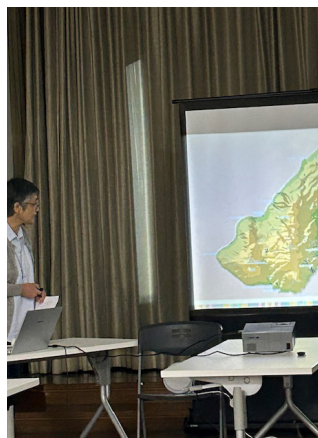
毎日そのセンターに通ってくる子供たち、東ティモールの公立の小学校は、一日2時間、中高は3時間です。一日の内の長い時間を、海岸や道路で遊んで過ごす子供たち、学校制度はまだ堅固なものではなく、学校へ行っても先生がお休みなので授業は無し、家の農作業、育児等を手伝わなければならない学校を休む、ということが頻繁です。そういう環境の中で生きている子供たちにとって、毎日休まず、センターに通ってくるということは難しいことでした。でも私達からその大切さをよく説明し、子供たちがセンターに来ることが楽しいと体験してくると、毎日休まずに通う子供たちが増えてきました。現在、30人から40人の子供たちが毎日通ってきます。

生活……

アタウロ島と本土を結ぶのは週3回（火、木、土）の片道3時間のフェリーボートです。月に最低2回はディリに行きます。給食の材料の仕入れのためや公共料金の支払い、銀行、日用雑貨品の購入などのためです。島で入手できるのは、冷凍の鶏肉、粉ミルク、ビスケット、飲料水、コメ、トウモロコシ、豆類、少しの魚等です。野菜、チーズ、バター、ハムなどはないので、ディリに買いに行きます。ですからかなり頻繁にディリに行くという生活です。船で飲料水、コメ、建築資材、道路工事のためのブルドーザーなど島の人々の生活に必要な品々が運ばれてきます。

環境……

アタウロ島はダイビングで世界的に有名な場所であり、オーストラリア、韓国、中国、その他の国々からも観光客が来ます。島にはいくつかホテルがあり、将来は観光産業を島の主な収入源にしたい



ということで、頑張っています。電気はようやく2か月前から供給が安定し現在午前8時から正午まで、午後2時から午前0時まで供給されています。ホテルには発電機がありますが島民たちは電気がない生活に慣れていています。今はそれぞれの世帯で、ソーラーパネルの小さいものを購入して日中太陽のもとに置いておき、夜はそれでスマホを使えるようにしています。当然、もともと深夜はエアコンが無いので暑いです。

レストナック社会教育センターのコンテナ教室は皆様からの支援のお陰で実現しました。しかし日中は暑くて勉強になりませんから、エアコンをつけることに致しました。今はエアコンもついて、特に午後3時から4時半までの学習支援を快適な環境の中で出来るようになりました。ありがとうございました。コンテナ教室建設の総額は、約\$35,000でした。この中の一部を皆様からの支援で賄うことが出来ました。

(当会より2020年9月総額\$13,500 援助)

学校の様子は……

Sr. アイリーン Aileen (フィリピン人) は一番小さい子供たちに、数を教えています。卵のケースを使っています。

Sr. ノラ Norah (ケニア人) は、看護師です。センターでは算数を教えています。

Sr. コンチス Conchis (スペイン人) は、長年スペインの学校で働いていて数学の先生です。今、センターで16歳から18歳の青年たちにコンピューターを教えています。ホテルに就職するためには、ワード、エクセルが駆使できなければなりません。それで学んでいます。家に帰っても電気とパソコンの環境はもちろんありません。

1時間コンテナ教室で勉強した後、外で遊びます。好きなようにするだけではなく、遊びを通して、判断力、バランス感覚、チームワーク、ルールを学べるような遊び方を教えています。

給食……

コンピューターのSr. コンチスは、給食作りも担当しています。子供たちは炭水化物(コメ、コーン)をたくさん取りますが、一年の内のほとんどは、それらを食べています。タンパク質と野菜はほとんどありません。給食では、野菜とたんぱく質を必ず入れるようにしています。お腹は空いていませんので、皆「栄養のバランスの取れた食生活が大切である」という考え方がありませんし、緑黄色野菜は入手しにくいのです。肉類は鶏肉の冷凍を買えますが、現金を持っていないのでそれを買う人はほとんどいません。豆類はあります。ジャック・フルーツ、パイナップル、バナナは豊富です。センターへ来る人数が毎日違うのでお食事を作り始めるのは、人数がはっきり分かる午後4時です。圧力なべを使って短時間で料理しています。子ども達は外での時間を終えると手を洗い給食時間になります。列を作り歌いながら食堂へ行きます。食前の祈りを唱え……

メニューはその時々で卵焼きの上にマッシュルームソースと揚げたパン、ごはんとソーセージとトマトソース、チョコレートと卵、チキンサンドイッチなどが作られます。

子供たちは、親しみのないメニュー(チーズ、ハムなど)が出てくると、「これは外国の食べ物だ」と言って変な顔をします。しかし子供たちは、おいしいと分かるや全部平らげてしまいます。体の小さい子どもたちは、あまり食べられません。Sr. コンチスは、「全部食べて強い体を作ろうね。」などと言って子供たちを励まします。時々、腕相撲をして励ましたりしています。皆と遊ぶのはSisterが少々大変です…。

お祝い事のある時の食事やジャック・フルーツは豊富に取れてデザートとしても野菜として食べますが子供たちは喜んで食事を頂きます。

潜在能力……

この子供たちにはとても生活力があり、自転車も自分たちで修理します。親にとって子供は大切な労働力ですからセンターから帰ると早速水牛の餌を取りに行ったりします。

アタウロ島の海岸線はほとんどがサンゴ礁と海洋生物の保護区域に指定されていて、工場とか、大きな魚の卸場などを建設することが出来ません。島民は現金収入はほとんどありませんが、そのかわり水がとても澄んでいます。

今のミッション……

マカダーデ Macadade という山間部の村に月 2 回訪問し、司牧活動をしています。常駐司祭がいません。日曜日でもミサが無く私達はみ言葉の祭儀、病人訪問、子供たちへの学習支援をしています。道路の状況が劣悪で、三菱トライトン Triton で 3 時間（道路が良ければ、40 分で大丈夫。19 km の道のり）かけて行きます。日曜日のみ言葉の祭儀には子どもたちも一番良い服を着て、精一杯のオシャレをして教会に集まります。

マカダーデには、超高齢の方も多く一人は 100 歳、もう一人は 110 歳です。

これからのミッション……

教育が大切と思うが小学校では子どもたちは 2 時間しかいられないのです。先生もいないので、美術や音楽、体育などの授業がありません。子どもの脳や情緒発達には必要な授業だと感じています。コンテナ教室の先に空き地があり、サッカーの指導者を招いて子どもたちに指導してもらうような計画も立てています。このような教育的支援に今後ともご協力いただければありがたいと思います。

今まで動画やスライドにて東ティモール、アタウロ島の現状をお話できまして幸いでした。これからも宜しくお願い致します。

東ティモール宣教の Sister 中村葉子（聖心侍女修道会ディリ在住）には大変お世話になっており感謝申し上げます。

日本カトリック海外宣教者を支援する会主催

クリスマス特集

フランシスコ、クリスマス、聖体

海外宣教者を支援する会 会長 フランシスコ会 村上 芳 隆 ofm

インターネット上で AI が使えるようになって、とても便利になりました。試しに＜クリスマスの語源、意味、価値について＞ ChatGPT-4o で調べてみました。すると以下の説明を含む回答を返してきました：「Christmas は、……Christ がキリスト、mas はミサ（礼拝）という意味です。」クリスマスとは「キリストのミサ」という意味であり、世界のキリスト教国ではキリストの降誕をお祝いする日です。現在では「クリスマス」という言葉自体が降誕祭を表す名詞になっていることは世界共通。

次に、＜クリスマスによく出てくる馬小屋の歴史的起源について＞問い合わせると、女子パウロ会のウェブサイトの参照を含んだ回答が出てきました。「馬小屋（プレゼピオ）：……クリスマスが近づくと、この馬小屋でのイエスの誕生の場面をかたどった人形が、教会や、信徒の家庭に飾られます。このクリスマスの飾りは、イタリア語で「プレゼピオ」と言います。この馬小屋をはじめで作ったのは、イタリアの聖人、アシジの聖フランシスコだと言われています。聖フランシスコは、1223 年グレッチオで、イエスの降誕の馬小屋を飾って、村人と共にクリスマスを祝いました。グレッチオには、岩山の上に修道院があり、洞窟に突き出した岩に、馬小屋を再現した壁画と祭壇が残っています。……」

しかし、英語で検索すると意外な解説が出てきました。「12 月 25 日、教皇リベリオは（352 - 356）、ローマで最初のクリスマスの祝いをするに当たって、聖マリア・マジョーレ聖堂で初めて小

さいクリブ（飼い葉桶に寝かされた幼子）を飾った。」

そこで、Catholic Encyclopedia のサイトで「crib（飼い葉桶）」について詳しく調べてみました。すると日本語で検索した情報とは、かなり違った説明が出ています。結論から言うと、最初に「飼い葉桶」をクリスマスに飾って祝ったのは、フランシスコではなかったようです。11世紀にはすでに受難劇と同じように降誕劇（Christmas plays）が行われており、さらに12世紀には典礼劇（Liturgical drama）に発展していったようです。ただ、フランシスコによるグレッチオでのクリスマスの出来事があったので、飼い葉桶や馬小屋を飾って祝う習慣が全世界に広まっていったのは事実です。

では、グレッチオで実際に何があったのでしょうか。聖フランシスコの帰天2年後の1228年に書かれた最も古い伝記（チェラノによる第一伝記 84-87）を改めて読み直してみました。それによると、飼い葉桶、敷き藁、生きた牛とロバ、そして幼子像が準備された所で（なぜか、マリア様とヨゼフ様は登場しません）、兄弟たちと村の人々とで主の降誕夜半ミサが祝われました。そこで、フランシスコは助祭として福音を歌い、説教しました。当時の典礼劇に比べると非常に素朴で単純な形、しかも聖堂ではない場所で行われたものでした。これは世界で初めて行われた野外での降誕祭ミサだったかもしれません。実はボナVENTOURAによる伝記によると、この企画のためにフランシスコは教皇庁から許可をもらっています（大伝記 10:7）。

その後、正式な聖堂が建てられ、グレッチオは巡礼地になっています。それは、「動物たちがかつて干し草を食べた所で、将来人々が魂と肉体の健康のために、言葉では言い表せない大きな愛から、わたしどもにご自身をお与えになり、栄光の中に永遠におられる神、父と子と聖霊と共に生き、治められる我らの主イエス・キリストであられる清く汚れのない子羊の肉を頂くことが出来る」ためでした（1チェラノ 87）。

伝記が伝えているのは、グレッチオでのロマンチックな出来事の紹介ではなく、貧しい状況の中での主イエスのご誕生と十字架の秘儀との間に深い関係があることです。わたしたちが聖体を「霊的な目で観想する」者となること、また聖体拝領することによって「永遠の命を持つ」ようになることが、何よりも大事なことだと強調しています（訓戒 1）。なぜなら聖体は、聖母マリアの胎に宿り、お生まれになった神の御子イエス・キリストご自身です。そして、クリスマスとは、御子のご誕生、そして、受難と死と復活の秘儀を一つのものとして祝う「キリストのミサ」以外の何モノでもありません。

連載

「海外宣教」

わたしたちとともにおられる神、イエスとの出会い

世界のすべての人々と、より親密に兄弟姉妹となるよう招かれています。

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

2024年、クリスマスおめでとうございます。

今日は人類が神に呼び祈っていることについて、皆さんと分かち合いたいと思います。真の兄弟愛に生きる、共存の新しいスタイルを築くことができるように、互いに助け合いましょう。イエスがすべての人を兄弟姉妹として一致させてくださると、わたしたちキリスト者は信じています。わたしが難民移動移住者の皆さんに奉仕することによって気付いた、いくつかの確信について分かち合います。また2023年と24年にエクアドル・キトを訪問したことについて

もお話ししたいと思います。

世界を癒すための兄弟愛

今日、世界を見回しますと、さまざまなところに痛ましい傷があることが分かります。とくに、戦争や内戦が起こしている暴力的な現状と、核兵器・化学兵器などの脅威です。

この世界を構成しているさまざまな民族間に、兄弟愛がなければ平和や和解はありません。わたしたちの社会は、戦争や暴力、無関心、人種差別、人身売買、自然破壊、地震や津波、洪水、パンデミックによって深い傷を負っています。さらに、未知なる脅威もあるでしょう。

現代のわたしたちは、これまでの世紀よりずっと世界のグローバル化をより意識しています。自国の問題のみに対応するだけでなく、地球全体のケアに取り組むことはすべての人の責務です。またわたしたちは地球が人類の住む「共通の家」として、地球の生態系を動かしている何千万種もの動植物や、人の目には見えない小さな生きものと共存していると感じ取って、このわたしたちの「共通の家」を神のみ旨にしたがって、一人ひとりが大切にケアしていかなければなりません。

エクアドルでの第53回国際聖体大会に参加して

この大会のテーマは「世界をいやすための兄弟愛」でした。このテーマのもと、第53回国際聖体大会が9月8日から15日まで、エクアドルの首都キトで行われました。この大会の1週間前には聖体の神秘に関する神学勉強会もあり、第二バチカン公会議後に行われた黙想を想いながら、聖書と教父たちの視点からの講話を聞く機会ももつことができました。

この大会に、わたしは日本司教団の代表として、パスカル宮下良平神父様（東京教区）とともに参加することができました。神に感謝するとともに、わたしと同じサレジオ会のアルフレド・エスピノーザ大司教様（キト教区）に感謝しなければなりません。去年9月に4日間に渡って行われた、この大会のプレ大会に招いてくださったからです。

今年の大会で、アジアからは台湾の1人の司教と10人の信徒が参加し、1人の女性信徒の聖体生活についてのあかしがあり、香港からの参加者も証言を行いました。さらに、シドニー教区のアントニー・コリン・フィッシャー大司教様とリチャード・アンバース補佐司教様（ともにドミニコ会）が参加し、大司教様は信徒10人ほどのグループを引き連れてきて、スペイン語を上手に話すだけでなく、日本語で挨拶してくれたことも印象的でした。

一つ驚いたのは、キトでは日本人や日系人には1人も会わなかったことです。現在エクアドルに住んでいる日本人は800人未満だそうです。隣国のペルーには日本人とその子孫で10万人を超える人たちが住んでいます。わたしは子どものころ、日本から南米アルゼンチンに移住したのですが、同じ南米でも国によって日系人の状況はずいぶん違うのだと思いました。

今回の第54回国際聖体大会は2028年、オーストラリア・シドニーで行われます。80ほどの異なる文化の人々が共存しているとのこと。人口は500万人、その65%がキリスト者です。

それぞれのエウカリスチア（聖体）においてイエスとともに生まれる

今年もイエスの誕生を祝い、とりわけ、わたしたち一人ひとりがミサで生かされるように皆さんを招きたいと思います。生きた神の現存を心の中に迎えられるよう、祈りと日々の働きに努めましょう。

皆さんにとって、よろこびに満ちたクリスマスでありますよう。そして新しい年、2025年が喜びのある驚きと希望で満たされますよう、皆さんとともに祈りしています。

クリスマスメッセージ

「キリストがお生まれになった場だけでなく世界各地での戦争が続いています。

過ちを何度も繰り返す私たちですが、主のご降誕を迎え救い主が共にいて下さる希望を持って進んでいきましょう」



新しい支援者

個人会員 2名

塩田 希 (岩手県奥州市) 仲西 美佐子 (沖縄県うるま市)

事務局より

◎世の中は1月の能登地震に始まり災害の年となりました。被災された方々の早い復興をお祈り致します。

◎今年も無事に「宣教者のお話を聞く会」を開催することが出来ました。また来年、宣教者をお迎えして開催したいと思います。今回の様子は本文に入れましたのでご覧ください。

◎この1年を通して皆様の温かいお志を頂き感謝しかございません、有難うございました。良いクリスマスと新年をお迎えください。来年も宜しく願い申し上げます。

本年は12月20日まで新年は1月7日より事務所を開けたいと思います。

事務所は火曜日、金曜日 10:00～16:00 オープンしております。

発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会